

## 今月の PICK UP



『ただいま装幀中』クラフト・エヴィング商会／著 筑摩書房 022.57

著者のクラフト・エヴィング商会は、吉田浩美と吉田篤弘による創作ユニットです。本の装幀やアート作品制作を数多く手がけ、ちくまプリマー新書については、初号から本書まで500冊全ての装幀を行っています。毎月2、3冊ずつ刊行される新書のカバーデザインを20年にわたり手がけてきた彼らが、その仕事の進め方や各装幀への思いなどを対話形式で語ります。

実際、この本の装幀デザインはどうやって生み出されたのでしょうか。最終章で、その過程は複数のデザイン案とともに紹介されます。読み終わった後は、誰もが改めて、この本の表紙をじっくりと見たくなるのではないのでしょうか。

『リクと暮らせば』大崎 梢／著 双葉社 913.6オ



司書の  
おすすめ

友人宅に不審者が現れたと聞き、不安になった高齢で一人暮らしの照子は、月10万円でレンタル番犬というサービスが利用できることを知り、迷いながらもシェパードのリクヴェル、通称リクと暮らし始めます。リクは普段は室内でごろごろしていますが、いざとなれば全力で照子を守ります。リクとの暮らしは、安全・安心以外にも照子の日常に様々な変化をもたらしました。本書は他にも、女性ばかりのシェアハウスに越してきた親子が主人公の話など、5編からなる連作短編集です。



『宇宙でラーメンは食べられるか』野口 聡一／著 幻冬舎 538.91



本書では、3度の宇宙飛行を成功した元宇宙飛行士、野口聡一さんが、自らの貴重な体験をもとに、宇宙空間で安全にかつ快適に生活するための秘訣を綴っています。「宇宙から納税」「パンツは3日」「宇宙食の人気トップ3」「宇宙からネットショッピング」「宇宙空間のトイレ事情」など、壮大で神秘的な宇宙のイメージからは想像できないような、超リアルな宇宙生活の様子をのぞいてみましょう。

『掛川花鳥園鳥の事件簿』掛川花鳥園／著 文一総合出版 488カ



2003年、静岡県にオープンした掛川花鳥園では、鳥類と植物を各100種類ほど飼育・栽培しています。本書は、ハシビロコウやフクロウ、ヨウム、ケープペンギンなどの特徴や生態を、掛川花鳥園でのエピソードとともに紹介しています。写真や漫画の掲載もあり、鳥たちの愛らしい姿やユニークな行動に頬がゆるみます。



『中国の回鍋肉にキャベツは使わない』中島 恵／著 ウェッジ 383.8ナ



本書は、中華料理を入り口として、中国の文化や人々の暮らしについて書かれています。日本では回鍋肉にキャベツを使うことは当たり前になっていますが、実はこれは日本独自の進化を遂げたもので、中国から伝わってきた経緯も解説されています。中国に精通する著者ならではの視点で、たとえ中国に興味のない人でも、身近な料理を通して新しい発見ができるかもしれません。